

「2021年の振り返り 並びに 今後の展望」

回復基調の継続と
今後の動向に関するキーワード

機械金属部会

山田 佳宏

2022年3月4日

目次

1. 会員企業の状況（事業分野・全般状況）

2. 関連諸指標と各事業分野別の動向

2-1. ブラジル鉱工業生産

2-2. 土木建設指数

2-3. 粗鋼生産

2-4. 電力消費、石油製品

2-5. 紙パルプ、工場用設備・制御機器

2-6. 建設機械、ポンプ等

2-7. 自動車関連その他

3. 今後の動向に関するキーワード

1-1. 会員企業の状況 - 事業分野

事業・製品分野	会社数
インフラ全般	2
鉄鋼	4
電力関連	1
建設機械	2
移動式クレーン	1
ポンプ	1

事業・製品分野	会社数
切削工具	1
潤滑油・金属加工油剤	2
ドライブシャフト	1
紙パルプ	1
プラント・工場用 制御システム・機器	2
計15分野	延18

(注) Principal会員企業47社中、オンライン会合(2月15日開催)参加の16社について集計。

(複数分野を有する会社は、該当分野毎に重複してカウント)

1-2. 会員企業の状況 - 全般状況

- 2021年の後半に入ってから、統計ベースの景気指標は陰りを見せている。
- 一方、会員企業の多くは、同年前半のペースをそのまま維持している。
- 2022年についても、ほぼ同様の傾向が続く他、設備投資も期待できるとの見方が大半。
- 今後の動向を左右する事項として、サプライチェーンや脱炭素化への取組等が出された。

2-1. ブラジル鉱工業生産



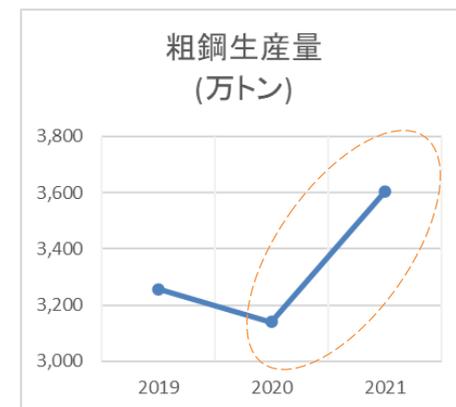
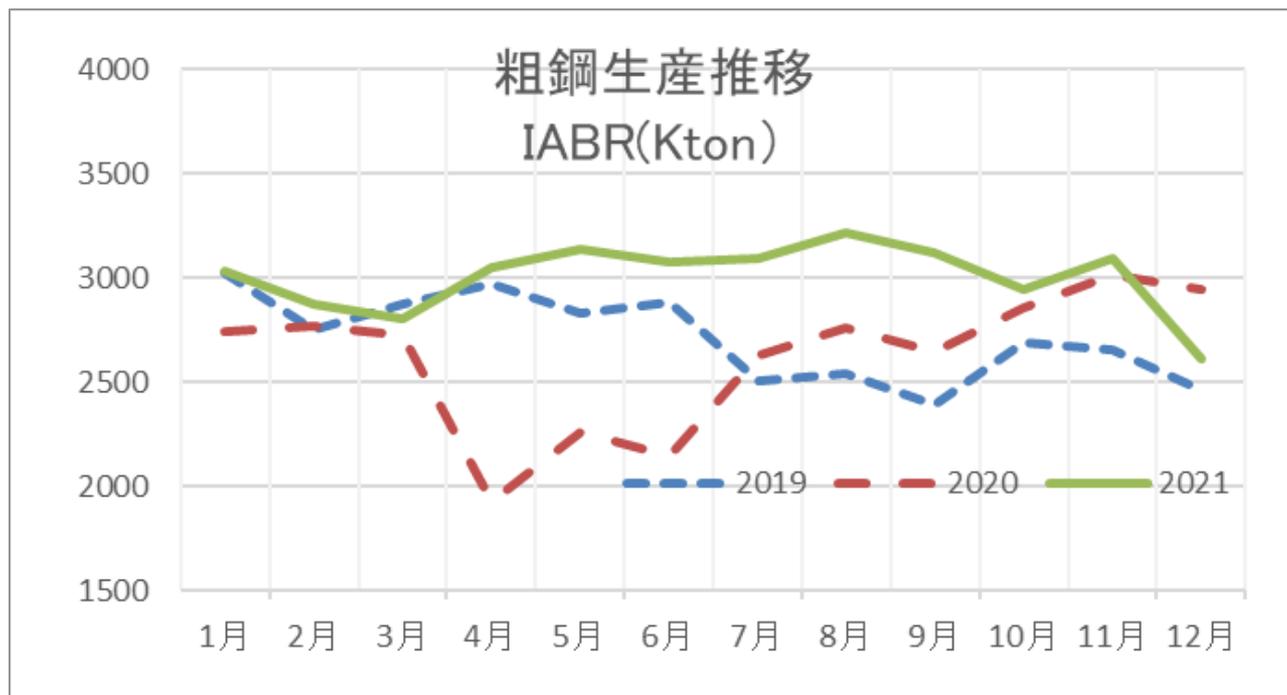
- ブラジル鉱工業生産は、2021年前半には対前年で大幅な増加を示した。
- 同年後半に入り、対前年を下回るペースが続いている。

2-2. 土木建設指数



- 土木建設指数についても、2021年前半は増加基調であったものが、後半に入りペースダウンしている。

2-3. 粗鋼生産

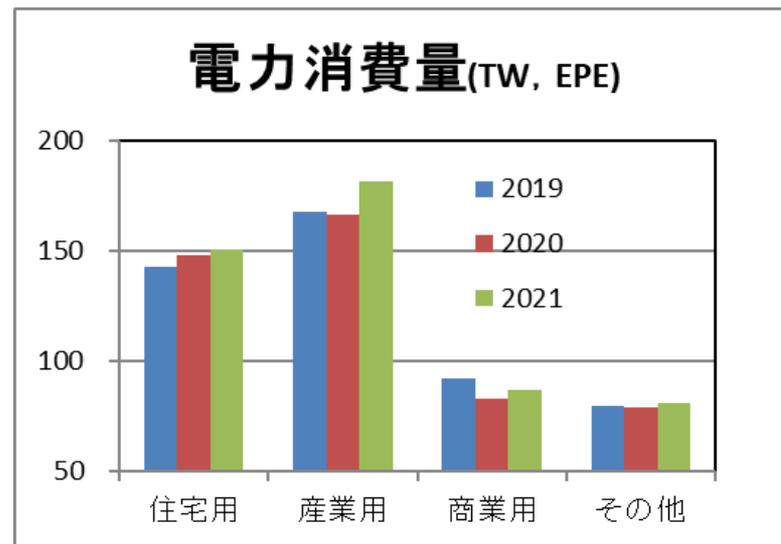


- 2021年は、前年後半から始まった鋼材需給のタイトな状況が継続し、過去最高の粗鋼生産量となった。
- 世界的な鋼材市況の上昇、原料価格高騰、国内需給のタイト化等を背景に、鋼材市況は高値圏で推移。
- 2022年の粗鋼生産量も、対2021年で+2%の見通し。

2-4. 電力消費、石油製品

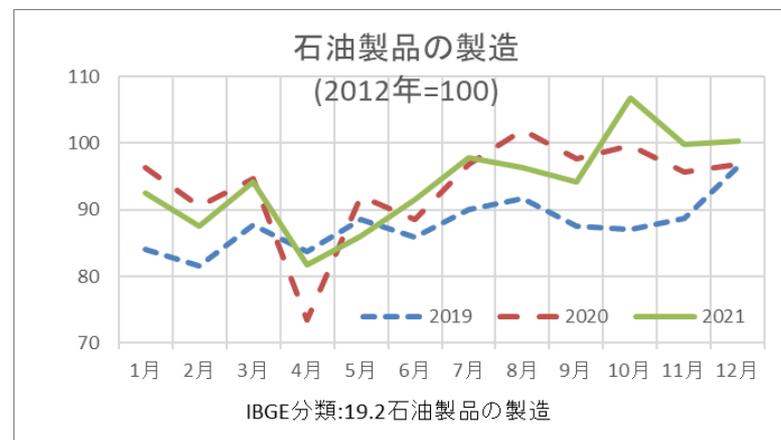
電力消費量

- 2021年の電力消費量は、対2020年で+4.1%。
- 水不足に伴い、電力料金が上昇。
- 今後10年間の電力消費は3.1%/年増加見通し(EPE)



石油製品

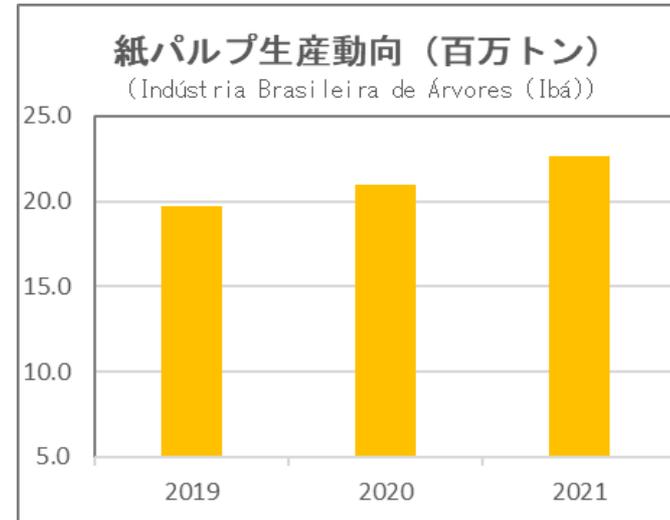
- Petrobras
- 680億ドルの資本支出(戦計2022-2026、対前回+23%)
- 2021年の生産計画達成



2-5. 紙パルプ、工場用設備・制御機器

紙パルプ

- 宅配(梱包資材)需要等により、紙パ業界は好調を継続



工場用設備・制御機器

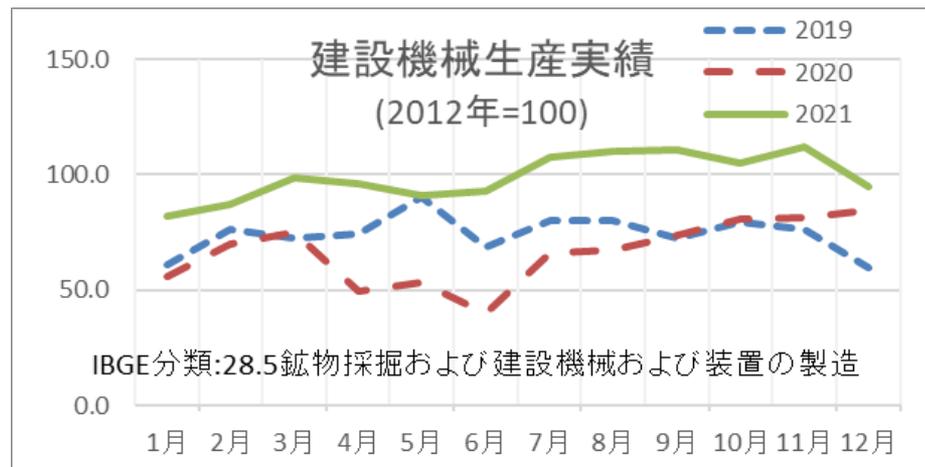
以上のとおり、製鉄・紙パ・石油ガス等は、引き続き高稼働

- 輸入クレーンの総需要(2021年)は、対前年比+200%
- パルプ、鉄鋼、化学向け工場向け制御等が好調

2-6. 建設機械、ポンプ等

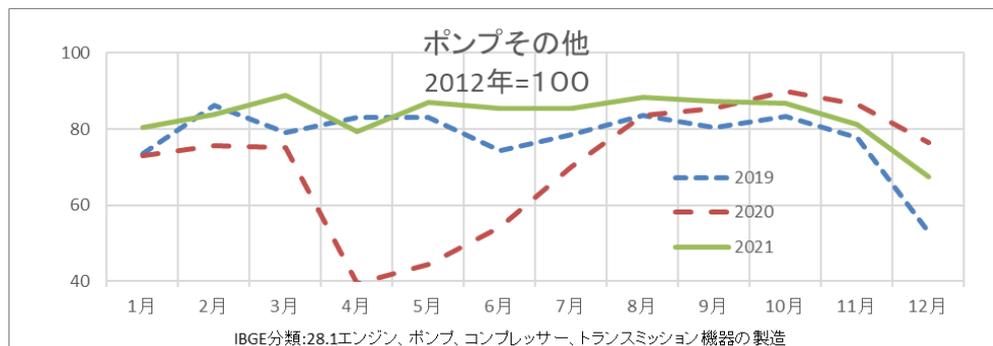
建設機械

- 2021年の国内販売は対前年+40%（年初予想を大幅に上回る）
- 2022年も成長トレンドが続く一方、インフレ・金利上昇を懸念

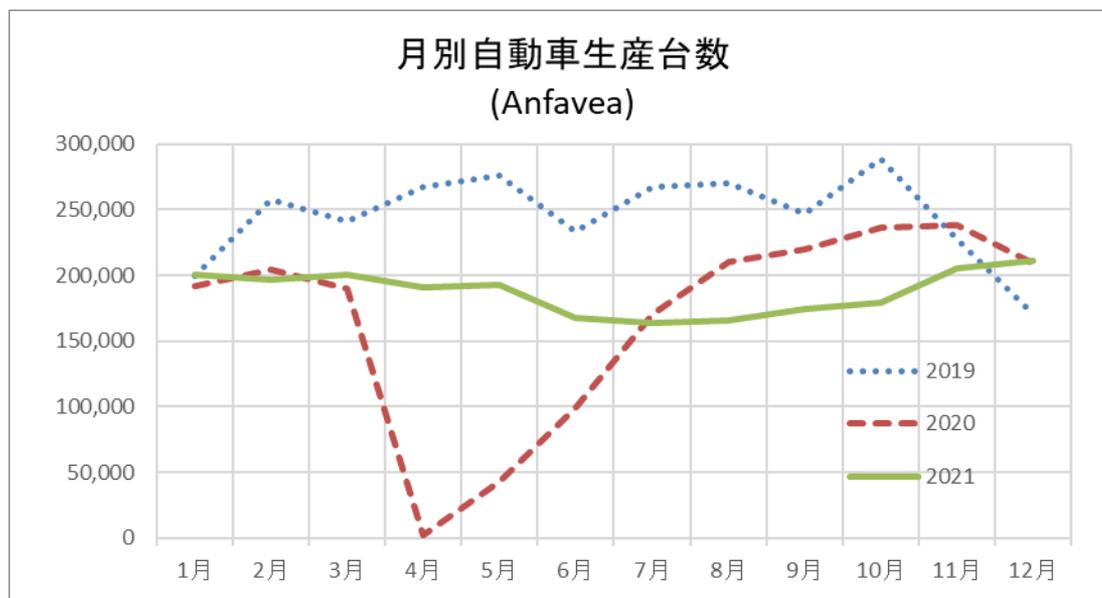


ポンプ等

- 継続的な在庫不足、購入品価格の上昇等
- 国内大規模干ばつ対応



2-7. 自動車関連その他



- 工具：自動車向は減産の影響で停滞。メディカル、農機関連が堅調。
- 金属加工油剤：自動車向は減少、農業機械向等が増加
- 潤滑油：2021年は市場全体で対前年+6%
- ドライブシャフト：自動車向け需要減の一方、新規案件開拓

3. 今後の動向に関するキーワード

- 政治リスク
- インフレ、金利上昇
- サプライチェーン
(生産資材の調達難、価格高騰、物流費用増加、
貨物運送の遅延)
- 脱炭素化対応
(再生エネルギーの動向、装置産業・製造業の
カーボンニュートラルへの取組)
- 製造現場・生産設備のデジタル化、リ
モートオペレーション

ご清聴ありがとうございました。

Obrigado!